

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

93

夏の特集展

第2回うつくしま自然展

—貴重なふくしまの自然を守る—

福島県立博物館





2. 尾瀬ヶ原下田代 写真提供：櫻村利道氏



1. オオシラビソ林 写真提供：櫻村利道氏



3. ニホンカモシカ 写真提供：矢内靖史氏

特集展

第2回うつくしま自然展-貴重なふくしまの自然を守る-

会期 平成21年7月7日(火)～9月4日(金)

主催 うつくしま自然展実行委員会・福島県立博物館

後援 福島大学自然共生・再生プロジェクト

ヒトは、野生動物たちにみられるように自然生態系に適応してそのメンバーになったのではなく、自分に都合の良いように自然生態系を改造して入り込み、今日の繁栄をみました。それは、例えて言えば、入社試験に合格して社員になったのではなく、会社を自分に都合のよいように改造して入り込み、威張っているようなものです。そんな会社が果たして存続できるものでしょうか？ 重苦しい環境問題にその行き着く果てをみる思いがします。

いっぽう、四〇億年の発達史を持った自然生態系の合理性と永続性は疑う余地がありません。私たちには、自然生態系に則して改造した部分を補強修正していく責任があります。そのためには、私たち一人一人が自然に対する確かな識見を培うことがまず大切です。自然は、人々の傷ついた心を癒し、深く大きくしてくれます。自然に遊び、そして自然に学ぶ心を育てましょう。

この展示会では、福島県の動植物や鉱物の研究団体が今までに集めた標本や知見を展示しています。これらの展示が、県民の皆さんが郷土の自然について改めて学び、考える契機になることを願っています。

(うつくしま自然展実行委員会委員長 櫻村利道)



■オリジナルキャラクター「ワッシ」

絶滅が心配され、保護が叫ばれている動物の代表「イヌワシ」。「ワッシ」はイヌワシをモデルとしたオリジナルキャラクターです。ワッシと一緒に展示を見ていきましょう。

(古川裕司氏制作)

■展示構成

プロローグ 自然生態系

四〇億年にわたる自然生態系の発達と、人類が誕生して自然生態系を改造して作り上げた人工生態系について概説します。



4. イヌワシ 福島県立博物館蔵



6. ヒヌマイトトンボ 写真提供：齋藤忠雄氏



5. メダカ 写真提供：会津若松市

関連行事

1. 昆虫にさわってみよう
日時 8月1日(土) 午前10時～午後4時
会場 博物館エントランス前広場
内容 カブトムシなどの昆虫に触ることができ、昆虫標本の作り方を教わります。また、淡水魚である生きたイトヨを観察できます。
2. 鶴ヶ城の自然を観察しよう
日時 8月1日(土) 午前10時～12時
場所 会津若松市鶴ヶ城周辺
講師 福島大学共生システム理工学類 准教授 黒沢高秀氏ほか
内容 鶴ヶ城の植物や野鳥、昆虫を観察し、その種類や生態について学びます。申込必要(7月1日から募集開始)
3. うつくしま自然博士になろう
日時 8月1日(土) 午前10時～午後4時
会場 企画展示室(要常設展チケット)
内容 展示についてのクイズに答えて、全問正解者には「うつくしま自然博士」の認定証を授与します。
4. 展示解説会
日時 7月7日(火) 午後1時30分
8月1日(土) 午後1時30分
会場 企画展示室(要常設展チケット)
講師 福島大学名誉教授 櫻村利道氏ほか
各参加団体代表のみなさん

参加団体 福島県生物同好会、福島県植物研究会、会津生物同好会、日本野鳥の会福島県内支部連合会、会津イトヨ研究会、福島虫の会、日本冬虫夏草の会、只見の自然に学ぶ会、石川町歴史民俗資料館、福島県自然保護協会(自然担当 竹谷陽一郎)

紹介します。

自然保護のために福島県で行われている環境教育の取り組みを紹介。

エピソード 自然保護

川の鉱物を取り上げて展示します。

4. 地域の自然

福島県で発見されている主要な冬虫夏草をお見せします。

3. 冬虫夏草

冬虫夏草とは、主に昆虫から生える不思議なキノコの総称です。福島県で発見されている主要な冬虫夏草をお見せします。

り組んでいる保護活動を紹介いたします。

2. ふくしまの動物

哺乳類、両生類・爬虫類、鳥類、淡水魚、昆虫など、福島県の豊かな動物相と希少動物について展示します。また、各研究団体が取り組んでいる保護活動を紹介いたします。

1. ふくしまの植物

福島県の特徴的な植生とそれを決定づける気候と地形、植物が進化しさまざまな種を生み出す過程など、本県の多様な植物の成り立ちを展示します。また、現在その存続が危ぶまれている希少植物を示します。

春の特集展記念

「シンポジウム 会津の景勝・兼統」

平成二十二年五月一六日（土）

講演「上杉謙信・景勝と直江兼統」

講師 新潟大学教授 矢田俊文さん

報告①「直江兼統配下の代官群像」

福島県歴史資料館主任学芸員 渡邊智裕

②「神指城について」

福島県歴史資料館主幹 本間 宏

③「会津藩家世実紀にみる上杉氏」

福島県立博物館学芸員 阿部綾子



講演の様子

このシンポジウムは、ドラマや小説で話題になっている上杉景勝・直江兼統と会津との歴史的な関わりについて、さまざまな視点から考えていただく機会を提供するという趣旨で企画されました。当館の特集展「直江兼統と会津の戦国武将」に合わせ、財団法人福島県文化振興事業団との共催事業として開催されました。

はじめに、上杉氏研究に造詣の深い矢田俊文氏をお招きして、基調講演が行われました。長尾景虎（上杉謙信）が越後で活躍した頃から、上杉景勝・直江兼統が会津へ移るまでを、時間の経過に沿って紹介する内容で、とくに謙信や景勝を支えた家臣たちが、どのように変化していったのか、直江家や兼統が、上杉家中でどのような位置を占めるようになったかという点などが詳しく説明されました。根拠となる史料を提示しながら、上杉氏の歴史を大局的につかむこともできる、とてもわかりやすいお話でした。

つづいて、三名の学芸員が、それぞれ異なる素材（資料）を用いて、報告を行いました。渡邊報告は、会津・米沢時代の兼統と上杉家臣・代官の動向を、残された古文書から紹介するもので、領内の村や町の有力者に対して、どのような指示・命令が出されたのか、具体的にわかりました。本間報告は、景勝・兼統が会津の地に築城を企て、未完のままに終わった神指城の発掘調査の成果などを詳細に紹介し、その結果を踏まえつつ、築城の意図・ねらいなどをわかりやすく提示するものでした。阿部報告は、会津藩が編纂した『家世実紀』に現われる上杉氏関係記事を紹介するもので、上杉氏旧



シンポジウムの様子

臣で後に会津藩士となった人物のエピソードや、上杉氏改易の危機を保科正之が救った出来事などが詳しく解説されました。

報告の後に、三報告の内容の確認と、矢田氏から各報告に対するコメントがありました。

会場には、二〇〇名を超える参加者が集まり、盛況のうちに終わることができました。参加者アンケートの中には、充実した講演・報告の内容を評価するものが多かった反面、ひとつひとつの内容をもっとじっくり聞きたかったという要望もありました。

シンポジウム終了後、特集展の展示解説会が行われました。報告者三名が、それぞれ関連深いコーナーの解説を担当したため、通常とはひと味違ったものになり、こちらも好評でした。

（歴史担当 高橋 充）

Q…手塚治虫は何か会津と関わりがあるのですか？
A…漫画の神様・手塚治虫は、生涯に一五万ページもの原稿をかき、徹夜続きの毎日を送ったと言われています。多忙を極める生活の中、手塚治虫は会津若松市を三回訪れました。

最初は昭和三四年四月、三〇歳の時。専属アシスタント二名を伴い、約一週間滞在しました。ただしこの間、市内観光ができたのは一日だけ。途中から小学館の編集者が合流し、仕事から逃れることはできませんでした。実はこの前月、日本初の少年漫画週刊誌『少年サンデー』（小学館）・『少年マガジン』（講談社）が創刊され、日本中の少年たちを熱狂さ

手塚治虫と 会津

せていました。それまで少年漫画雑誌といえば月刊があたりまえ。この変化は売れっ子漫画家たちの仕事を倍増させます。当然手塚治虫もこの渦中にあり、手塚治虫の作品「スリル博士」は『少年サンデー』の巻頭をカラーで飾っていました。旅行中に東山温泉の旅館で書き上げた作品はその第4話「博士のノイローゼ」で、会津若松市が舞台です。会津若松駅・鶴ヶ城・東山温泉・飯盛山・背あぶり山のケーブルカーなど市内随所が描かれ、会津弁も登場します（「あんつあま、えーずわかまつの、すーてんさ、つくからし」。意味は考えてみて下さいね！）。

手塚治虫は何故、会津旅行を計画したのでしょう。実は、同行したアシスタントの笹川ひろし・平田昭吾の両氏が会津若松市の出身で、その縁がきっかけとなったようです。両氏は漫画家を目指した集まりである「会津漫画研究会」の出身で、会長の白井義夫氏は手塚治虫の滞在を心をこめて世話し、以後、手塚治虫と親しく交流しました。ちなみに笹川ひろし氏は、のちに竜の子プロダクションの設立に参加し、「タイムボカンシリーズ」など数多くのアニメーションを手がけ、活躍されています。

手塚治虫の二回目の会津訪問は、昭和四七年、漫画家の親睦団体「漫画集団」の一員としてです。「漫

Q&A

阿部綾子

回答者
歴史担当

画集団」は定期的に各地の祭りに参加する企画を立てていましたが、この年は手塚治虫の発案で白井義夫氏にコーディネートを依頼し実現したといえます。「漫画集団」は会津白虎まつりに参加し、神明通り商店街では漫画教室も開かれました。参加した漫画家は、笹川ひろし氏をはじめ、馬場のぼる・小島功・やなせたかしら、総勢二四名にのほりました。三回目は昭和五〇年、家族旅行での訪問です。プライベートな旅行先としても、手塚治虫は会津の地を選んだのです。

手塚治虫は平成元年に六〇歳という短い生涯を終えましたが、その生涯の中で三回も会津を訪れてい

るのは、「会津漫画研究会」をはじめとする会津の皆様さんとの出会いが印象深く心に刻まれていたからでしょう。

参考文献『私たちの手塚治虫と会津』

（福島まんが集団、青い鳥、発行）

●ミュージアムイベントのご案内

Action for KIDS 親子で楽しむ野外映画会

「火の鳥〜ヤマト編〜」

●日時

平成21年8月15日（土） 19時00分〜20時00分

●内容

漫画の神様・手塚治虫のライフワークとなった『火の鳥』。各編は壮大な構想のもとに連結し、その深いストーリー性は多くの人に影響を与え続けています。今回ご覧いただくのは、古墳時代の日本を舞台に、神話を下敷きとして展開する「ヤマト編」をアニメーション化した作品です。ひと夏の思い出づくりに、どうぞご家族でお越し下さい。



火の鳥 ヤマト編 ©1987 手塚プロダクション/角川映画・東北新社

弥生時代の石器について

大竹 正浩 考古担当

七月より常設の部門展示室でテーマ展「収蔵・寄託県指定考古資料展」を行います。博物館に収蔵や寄託された資料の中で県の重要文化財に指定されている資料を展示します。

ここでは、今年度新しく県の重要文化財に指定された「相馬双葉地方の弥生時代石器」についてふれたいと思います。

南相馬市（旧原町市）の故竹島國基氏が、五〇年にわたって収集・採集した土器や石器類は約一三、〇〇〇点にもなります。この資料は、現在県立博物館と南相馬市博物館に寄贈されています。寄贈された資料には、竹島氏が採集した場所や採集日が書き込まれており、対応する形でノートにも克明に記録されていることから資料的価値が高いものとなっています。

当館に寄贈された資料のうち、石庖丁や大型蛤刃石斧といった石器類三三三点が指定品となりました。豊富な量とともに、完形品も多いことから東日本でも非常に優れた資料となっています。

指定品の中心となるのは、南相馬市鹿島区の天神沢遺跡と南相馬市原町区の桜井遺跡から採集された大陸系磨製石器類です。

大陸系磨製石器は、水稲耕作が日本に伝わった弥生時代に朝鮮半島の影響を受けて作られた石器を指しています。種類としては、収穫用の農具である石庖丁、伐採用の工具である大型蛤刃石斧、加工用の

工具である扁平片刃石斧やノミ形石斧があります。石器類の時期は、一緒に採集された土器から弥生時代中期後半（約二千年前）に位置付けられます。この時期の土器は、細い竹状の工具をタテに半分に割り、その断面を用いて二本同時に線を引いて渦巻きなどの文様を描いた「桜井式土器」と呼ばれるものです。

天神沢遺跡からは、石庖丁の未製品が数多く見つかっており、それらを観察すると石材から薄く扁平な剥片をとり、細かい調整を加え、研磨した後に穿孔していたなどの製作工程がわかっています。このことから天神沢遺跡が石庖丁の製作の場であったとみられます。



南相馬市桜井遺跡出土石庖丁

石庖丁の多くは、薄く剥がれやすいという特徴を持つ粘板岩を用いて作られています。この石材は地元を流れる真野川や新田川上流の阿武隈山系から供給されたと考えられます。

石庖丁の形状は、石庖丁を持つ部分が直線的で穂をそぎ取る刃の部分が湾曲するタイプ（写真上）と、持つ部分と刃の部分のどちらも湾曲する紡錘形のタイプ（写真下）の二種類が主となります。浪江町の上ノ原遺跡の石庖丁のように、持つ部分が湾曲し刃の部分が直線的になるタイプも全体の資料の中から数点見つかっています。

そのほか相馬市塚部の新城山遺跡の石庖丁は、他と比べて二個の紐通し穴の距離間が大きいといった特徴を持っています。また、相馬市南小泉の曲田から採集された石庖丁の未製品は、唯一砂岩でつくられたものになります。

石庖丁以外の石器では、有角石斧という弥生時代の後半に関東から東北地方南部にかけてみられる角状の突起を持つ珍しい形をした石器があります。この石器は、青銅器を模した祭祀的な道具と考えられています。石鏃の特徴的なものとしてアメリカ式石鏃があります。これは矢に装着する部分が大きく抉られているもので、ネイティブ・アメリカンが使用していた鏃と同じ形状をしていたことから名付けられました。この石鏃は、桜井式土器の時期よりも新しい時期（天王山式期）の遺跡から見つかる例が多く知られています。

弥生時代の石器について述べてきましたが、写真や図録でみる石器よりも、実際に実物をみていただいたほうが、弥生時代の人々の石器製作技術の素晴らしさを知ることができると思います。

アクション No.	期 日	種 別	名 称	内 容	参加方法
1	7月4日(土) 8月23日(日)	テーマ展示	けんぱく版課外授業 -見る教科書-	博物館のさまざまな分野の収蔵資料を中心に構成した見る教科書。夏休みの宿題や自由研究のヒントが見つかるかも。	展示観覧型
2	7月7日(火) 9月4日(金)	夏の特集展	第2回うつくしま自然展 -貴重なふくしまの自然を守る-	福島県の動植物の研究団体が集めた、昆虫・野鳥・魚・草花・鉱物などの実物や写真を展示。福島県の多様で貴重な生き物やその生息環境を紹介します。	展示観覧型
3	8月15日(土) 9月23日(祝)	Action for KIDS 特集展	会津とマンガ文化 ~アニメ監督・笹川ひろしの原点~	人気アニメ「ヤッターマン」の監督といえは会津若松市出身の笹川ひろしさん。笹川さんを中心に、会津とマンガ文化の知られざる深い関係を紹介しします。	展示観覧型
4	7月18日(土) 13:30~15:30	ミュージアム イベント	けんぱく大茶会	茶の湯文化を楽しく体験できる4つのブースが登場。お茶を点てたり、飲んだり、日本ならではの礼儀作法をやさしく教えてもらったり。裏千家会津支部との共催です。	自由参加型
5	7月19日(日) 13:30~15:00	実演	昔語り for KIDS Action1	“語り部” 山田登志美さんの実演。子供たちを対象にした楽しい「昔語り」です。	自由参加型
6	7月23日(土) 7月24日(金) 10:00~16:00	KIDS プログラム	夏休み宿題相談会 (歴史・美術・考古・民俗・自然)	歴史・美術・考古・民俗・自然の各分野の学芸員がエントランスに相談コーナーを設けて、子どもたちの夏休みの宿題相談に応じます。	自由参加型
7	7月30日(土) 10:00~16:00	KIDS プログラム	1日まるごと博物館	「バックヤードツアー」・「勾玉作り」・「火おこし体験」など、さまざまな体験活動に参加しながら、一日を館内で過ごす小中学生限定のイベントです。	募集型
8	8月1日(土) 10:00~16:00	ミュージアム イベント	昆虫にさわってみよう	「第2回うつくしま自然展」関連行事。福島県の会会員の指導による、昆虫の見方や昆虫の標本作製を体験。生きた魚に触れるコーナーもあります。	自由参加型
9	8月2日(日) 13:30~15:00	実演	昔語り for KIDS Actin2	“語り部” 横山幸子さんの実演。子供たちを対象にした楽しい「昔語り」です。	自由参加型
10	8月5日(水) 8月7日(金) 10:00~16:00	考古学講座	高校生のための考古学集中講座 発掘体験・遺跡見学・体験学習	3日間連続の講座。遺跡見学・発掘調査体験のほか、火おこし、玉作りなどの体験学習を通して、考古学の基礎が学べます。	募集型
11	8月8日(土) 17:30~18:30	KIDS イベント	ナイトミュージアム	真っ暗な夜の常設展示室を懐中電灯を持って探検します。闇に浮かび上がる「フタバスズキリュウ」、「縄文の竪穴住居」、「木炭バス」は迫力満点です。	募集型
12	8月9日(日) 13:30~15:00	美術講座	親子で楽しむ展示室講座1 さわる触れる博物館	テーマ展示「けんぱく版課外授業」関連講座。美術資料・民俗資料等幅広い収蔵資料の材質・質量などを実際に体験できます。ワークシート形式で学習します。	自由参加型
13	8月15日(土) 19:00~20:00	ミュージアム イベント	親子で楽しむ野外映画会 火の鳥~ヤマト編~	漫画家手塚治虫のライフワーク『火の鳥』。映画化されたシリーズのうち、古墳時代の日本を舞台に、神話を下敷きとして展開する「ヤマト編」を上映します。	自由参加型
14	8月16日(日) 13:30~15:00	美術講座	親子で楽しむ展示室講座2 けんぱくポイント日本史	テーマ展示「けんぱく版課外授業」関連講座。開催中のテーマ展示「けんぱく版課外授業-見る教科書-」の解説を親子向けに展開します。	自由参加型
15	8月22日(土) 13:30~15:00	KIDS プログラム	科学おねえさんの みんなの実験教室	喜多方市出身の科学おねえさん福島郁子さんの科学パフォーマンス教室。空気砲やストロー笛の実験などを小学生向けにエントランスホールで行います。	自由参加型
16	8月23日(日) 13:30~15:00	美術講座	親子で楽しむ展示室講座3 教えて達人	テーマ展示「けんぱく版課外授業」関連講座。刀剣・会津漆器の専門家が展示中のテーマ展示資料を見ながら達人ならではの見方を教えてください。	自由参加型
17	8月30日(日) 10:00~14:00	会津若松市 幼稚園協会 共催事業	かえっこバザール@あいづ	不要となったおもちゃを持ち寄って交換したり、ポイントを貯めて自分の欲しいおもちゃをゲットするイベント。誰でも参加できる、お金のいらぬ子供たちの遊び場です。	自由参加型

2009年・夏、けんぱくの合い言葉は … 「Action for “KIDS”」 (子供たちのために…)

福島県立博物館では、夏休みに子ども向けの企画を展開してきましたが、平成21年度の夏は、特に子どものための事業を盛りだくさんに展開します。小学生や中学生の皆さんが、楽しく、遊んで学べるプログラムが満載です。

期間は、7月4日(土) から9月4日(金) までです。

各プログラムの詳細は、ホームページや博物館ニュース等でご確認ください。夏休みは、けんぱくへ行こう!!

特集展

※常設展料金で観覧いただけます

「第2回つくしま自然展
―貴重なつくしまの自然を守る― Action for KIDS
会期 7月7日(火)～9月4日(金)

◎特集展関連行事

○展示解説会
「第2回つくしま自然展
―貴重なつくしまの自然を守る―

講師 福島大学名誉教授 櫻村利道さんほか
日時 7月7日(火)～8月1日(土) 13時30分～14時30分
会場 マンガ文化アニメ監督・笹川ひろしの原点
会期 8月15日(土)～9月23日(祝)

テーマ展

※常設展料金で観覧いただけます

「げんばく版課外授業―見る教科書― Action for KIDS
会期 7月4日(土)～8月23日(日)

「明治21年の磐梯山噴火による地形変化」
会期 7月14日(火)～12月27日(日)

「収蔵・寄託 県指定考古資料展」
会期 7月22日(水)～平成22年4月4日(日)

「照姫と敏姫―新収史料でよみとく幕末会津藩の裏側―
会期 8月29日(土)～10月4日(日)

ポイント展

※常設展料金で観覧いただけます

「ふくしま最古の化石
―太古の森林を作った鱗木レプトフレウム―
会期 7月14日(火)～8月25日(火)

「日本最古のアリ化石
―コハクに封じ込まれた白亜紀のハリアリ化石―
会期 7月14日(火)～8月25日(火)

「謎の海獣パレオブラドキシア
―1500万年前の海獣の頭骨常設展で初公開―
会期 7月14日(火)～8月25日(火)

「ゾウのいたふくしま
―氷河時代のナウマンゾウの実物臼歯初公開―
会期 7月14日(火)～8月25日(火)

「戦時下の資料―風船爆弾―」
会期 7月16日(木)～8月21日(金)

「会津慧日寺の宝物」
会期 7月16日(木)～8月21日(金)

「玉のアクセサリー」
会期 7月22日(水)～平成22年3月31日(水)

「古代の鉄生産」
会期 9月15日(火)～平成22年3月31日(水)

「保存処理完了！勿来金冠塚古墳の古墳時代青」

会期 4月21日(火)～9月23日(水)
「中尊寺経(秀衡経)」
会期 9月26日(土)～11月23日(月)

ミュージアムイベント

「げんばく大茶会」 Action for KIDS
講師 裏千家会津支部の皆さんほか
日時 7月18日(土)13時30分～15時30分

※「鶴ヶ城の自然を顕彰しよう」
講師 福島大学准教授 黒沢高秀さんほか
日時 8月1日(土)10時～12時

「昆虫」さわらびのみず」 Action for KIDS
講師 福島虫の会会員ほか
日時 8月1日(土)10時～16時

「親子で楽しむ野外映画会
『火の鳥―ヤマト編―』 Action for KIDS
日時 8月15日(土)19時～20時30分

木曜の広場 『会津農書』の世界

場所 講堂

第4回 「会津農書」と飢饉の心構え
―会津の農業への心構え―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 7月2日(木)13時30分～15時

第5回 「会津農書」の野菜たち―会津の伝統野菜―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 8月6日(木)13時30分～15時

第6回 「会津農書」と絵巻書
―描かれた会津の農業と民俗―
講師 館長 赤坂憲雄 学芸員 佐々木長生
日時 9月3日(木)13時30分～15時

講演・講座

※は要申込

○文化庁支援事業
対談・公演「げんばくで見直すカラダ」
―平山素子ダンスパフォーマンス―
講師 福島大学教授 渡邊晃一さん 館長 赤坂憲雄
日時 7月5日(日)13時～16時30分

○文化庁支援事業
〈漆のくへへ会津〉プロジェクト
※「私の漆を育てよう1」
講師 漆掻き職人 谷口 史さん
日時 8月1日(土)10時30分～15時30分

○文化庁支援事業
NPO法人はるなか漆部会の皆さん
日時 8月1日(土)10時30分～15時30分

○歴史講座
場所 野外

古文書からさぐる直江兼続の時代③
「若松の商人がみた会津の武将たち」
講師 学芸員 高橋 充
日時 7月11日(土)13時30分～15時

古文書からさぐる直江兼続の時代④
「関ヶ原合戦の情報は、いつ伝わったか」
講師 学芸員 高橋 充
日時 8月8日(土)13時30分～15時

「照姫と敏姫―新収史料でよみとく幕末会津藩の裏側―」
講師 学芸員 阿部綾子
日時 9月12日(土)13時30分～15時

○美術講座
「麟閣で見る会津の美」
講師 学芸員 笹川英俊 川延安直 小林めぐみ
日時 7月11日(土)13時30分～15時

「親子で楽しむ展示室講座2
『げんばくポイント日本史』 Action for KIDS
講師 学芸員 笹川英俊
日時 8月16日(日)13時30分～15時

「親子で楽しむ展示室講座3
『教えて達人』 Action for KIDS
講師 会津若松市文化財保護審議会会長 渡邊 明さん
会津若松市文化財保護審議会委員 小林 等さん
日時 8月23日(日)13時30分～15時

○考古学講座
※「土器作り」
講師 学芸員 大竹正浩
日時 7月25日(土)10時～15時

※「高校生のための考古学集中講座
発掘体験」
講師 学芸員 田中 敏ほか
日時 8月5日(水)10時～16時

※「高校生のための考古学集中講座
遺跡見学」
講師 学芸員 横須賀倫達ほか
日時 8月6日(木)10時～16時

※「高校生のための考古学集中講座
体験学習」
講師 学芸員 大竹正浩ほか
日時 8月7日(金)10時～16時

※「土器焼く」
講師 学芸員 大竹正浩
日時 9月27日(日)10時～15時

○自然史講座
※「化石をさがそう」(いわき市石炭化石館と共催)
講師 学芸員 相田 優

日時 9月26日(土) 詳細未定
場所 いわき市内
※「化石標本をつくらう」(いわき市石炭化石館と共催)
講師 学芸員 竹谷陽二郎
日時 9月27日(日) 詳細未定
場所 いわき市石炭化石館

実演

場所 体験学習室

「音語り for KIDS」 Action1
講師 語り部 山田登志美さん
日時 7月19日(日)13時30分～15時

「音語り for KIDS」 Action2
講師 語り部 横山幸子さん
日時 8月2日(日)13時30分～15時

「機織り」
講師 染織工芸家 山根正平さん
日時 9月13日(日)13時30分～15時

指導者向け研修講座

場所 実習室

「福島県立博物館研修講座」
講師 学芸員
日時 8月20日(木)9時30分～16時

やさしい展示解説

※展示解説員による常設展総合展示の案内です。
*毎週土曜日、日曜日の11時から14時までは行いません。

常設展無料開放日

8月21日(金)県民の日

7月から9月の休館日

7月 6日(月)・13日(月)・21日(火)・27日(月)
8月 3日(月)・10日(月)・17日(月)・24日(月)・31日(月)
9月 7日(月)・14日(月)・24日(木)・28日(月)

KIDSプログラム

7頁をご覧ください

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
*その他、行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。